

②5本宮市のまちづくりと一体となった治水対策の取り組み (阿武隈川・河川都市基盤整備事業)

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

キーワード まちづくり懇談会、パラペット方式、まちと川を結ぶ

全建賞審査委員会の評価ポイント

阿武隈川沿の都市基盤整備事業。再度災害防止事業をてこに、中心市街地の空洞化への影響も考慮して柔軟に堤防の方式を変更したことに加え、河川改修と連携し、交流拠点施設やアクセス道の整備等により回遊性ネットワークの形成を図る等、沿川の安全で暮らしやすいまちづくりを連携させている点が評価された。

1. はじめに

福島県の「へそのまち」と呼ばれる本宮市。市内を貫流する阿武隈川は完成堤防に至っていない地区であったため、戦後最大規模洪水の昭和61年洪水から、令和元年東日本台風洪水まで、繰り返し洪水被害を被っている。頻発する大規模洪水から本宮市民を守り、地域の安心・安全な暮らしの実現に向け、平成17年から堤防嵩上げ等、都市基盤整備事業に取り組んできた。約2.2kmに及ぶ「まちづくりと一体となった治水対策」は15年の歳月をかけ、令和3年3月完了したところである。

2. 事業の概要

本宮市左岸の河川改修は、市街地への影響を考慮する必要があったため、「阿武隈川左岸地区まちづくり懇談会」を設立し、有識者、地域住民、本宮市、福島県、国土交通省でまちづくりを議論する場を設け、関係者一体で取り組んだ。また、堤防整備は、土堤で整備した場合、家屋・宅地への影響範囲が広くなり、事業実施後の市街地空洞化が懸念されたため、土堤方式によらない「パラペット（特殊堤）」方式を採用した。

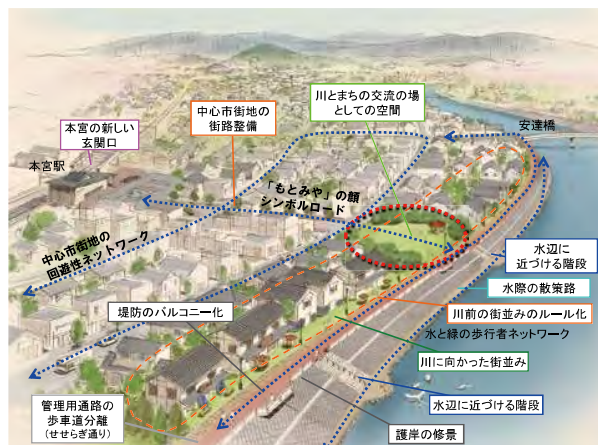


パラペット（特殊堤）整備と本宮市による広場整備

3. 事業の成果

本宮地区では「かわまちづくり」にも取り組んでいる。

市と国の事業が双方連携し「まちと川を結ぶ」ネットワークを形成し、まちの魅力向上や、川とまちの交流の場としての河川空間を創出し、まちの活性化や観光振興を図ることとしている。阿武隈川沿いでは、河川空間において管理用通路や階段を整備したことで、利用面での安全性と回遊性が向上し、河川利用が促されたほか、河川空間の利便性も向上したため、日々の利用が促進されたとともに、各種イベント開催により、川とまちの交流の場として活用されている。



本宮地区・まちづくりと一体となった治水対策
(イメージ)

4. おわりに

本宮左岸地区の中心市街地は、令和元年東日本台風洪水で広範囲にわたり浸水し、甚大な被害に見舞われたが、今般、都市基盤整備事業によるまちづくりと一体となった治水対策が完了し、一定の治水安全度は確保されたところである。一方、元年台風洪水から間もなく2年経過するが、地域の人々は、今もなお、この洪水で亡くなった方々を忘れることなく、かわの怖さを再認識するとともに、かわの持つ魅力に親しみをもち共存している。

本宮市民をはじめ、あらゆる関係者が一体となり、阿武隈川と本宮地区らしい、かわまちづくりの明日を期待する。

賛助会員 三井共同建設コンサルタント(株)、いであ(株)、(株)建設技術研究所、パシフィックコンサルタンツ(株)